

百貨店契約駐車場マップ ParkingNAVI の利用状況調査

東北工業大学大学院 学生会員 ○成田 真也

東北工業大学 正会員 菊池 輝

1. はじめに

宮城県内の交通機関分担率は、乗用車への依存が進んでおり（約 8 割，2007 年）¹⁾，仙台市都心地区では、駐車場の待ち行列渋滞が、通過交通やバス交通の妨げになっている。都心活性化や環境問題の視点等から、この待ち行列を減少させることが重要である。筆者らは昨年度、仙台三越への自動車による来店者を対象とした調査を行い、駐車場分散のために必要な情報を提供するコミュニケーションツール「ParkingNAVI」を開発した²⁾。ParkingNAVI 配布時に行ったアンケートでは、「今後、状況によっては、契約駐車場を使おうと思う」と回答した人が、約 8 割であり、コミュニケーションツールに掲載した情報により、行動意図が活性化されたと推察される。さらに、利用予定の契約駐車場数の平均値は 2.4 カ所であり、具体性をもった今後の計画を回答させたことから、実行意図活性化にも繋がると思われる。

本研究では、ParkingNAVI の利用者に対する 1 年後の利用状況を把握するために、アンケート調査を実施し、ParkingNAVI の長期的効果を分析することとする。

2. アンケート調査

調査は平成 25 年 12 月に、郵送で配布・回収した。対象者は、平成 24 年 11 月 24-25 日に実施した 1 回目のアンケート調査に協力して頂いた方のうち、追跡調査に同意頂いた 12 名である。回答は 11 名から得られた。主な調査項目は、以下の通りである。

2. 1 ParkingNAVI 利用に関する現状

(1)現在の利用状況：「利用している」「以前は利用していたが、今は利用していない」「利用したことがない」「その他」から選択させた。

(2)本館・定禅寺通り館駐車場の利用頻度：「とても増えた」から「かなり減った」までの 7 件法で尋ねた。

2. 2 仙台三越来店時の駐車場選択

仙台三越来店時に、どのような状況で、「本館・定禅寺通り館駐車場」「仙台三越契約駐車場」「その他の駐車場」の中からどの駐車場を選択するのかを把握するために、「以下の状況でどの駐車場を利用するか」を直感で選択してもらった。

提示した状況：1 人で来店、同伴者がいる、同伴者にお年寄りがいる、同伴者に小さな子供がいる、買い物が多いときや荷物が大きい、仙台三越以外に立ち寄る予定や場所・施設がある、雨や雪・天候が悪い、経験や時間帯により本館・定禅寺通り館が渋滞していると思った時

3. 集計結果

3. 1 ParkingNAVI 利用に関する現状

11 名中 6 名が ParkingNAVI を「現在も利用している」と回答した。その保管場所としては、利用している人 6 名中 5 名が「車の中」、1 名が「持ち歩いている」という回答であった。これは昨年度の事前アンケートから抽出した「行動変容させるための要因」としての、「記載情報の契約駐車場でも無料駐車券が利用できるという情報」「駐車場の営業時間などの情報」がコンパクトにまとめられていることに加え、行動変容の負荷を軽減する諸般の工夫が ParkingNAVI の持続的な利用に繋がったと言える。また、ParkingNAVI の大きさが車の中での保管や持ち歩きを可能にしたと考えられる。

キーワード 駐車場分散，コミュニケーションツール

連絡先 〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1 東北工業大学大学院土木工学専攻 TEL 022-305-3517

3. 2 本館・定禅寺通り館駐車場の利用頻度

ParkingNAVI を手にする前（昨年 10 月頃）と今現在とで比較して、本館・定禅寺通り館駐車場を利用する頻度を聞いたところ、11 名中 2 名が「減った」と回答した。ParkingNAVI が駐車場選択に影響を与えた結果と言える。

3. 3 仙台三越来店時の駐車場選択

どのような状況で本館・定禅寺通り館駐車場を利用するのかという設問については、本館・定禅寺通り館駐車場の利用頻度が変わらない人 9 名（変化無群）と、減った人 2 名（減少群）を 2 つのグループに分けて集計した。結果、上述の状況の中で、「仙台三越以外に立ち寄る予定や場所・施設がある」「経験や時間帯により本館・定禅寺通り館が渋滞していると思った時」の 2 つの状況においては、変換無群は概ね本館・定禅寺通り館駐車場を利用する一方で、減少群の 2 名は「本館・定禅寺通り館駐車場以外」を利用するという回答であった。その他の状況においては 2 群に差はないことから、利用駐車場分散のためには、「まちなか回遊時には契約駐車場がスムーズである」や「混雑情報のリアルタイム提供」の有効であると考えられる。

4. ParkingNAVI の効果

回答した 11 名については、コミュニケーションツール配布時（昨年度）に実施したアンケート調査と、リンクした分析が可能である。昨年度の回答結果との関連性を含め、ParkingNAVI の持続的効果について考察を加える。

昨年度のアンケートにおいて、「今後、状況によっては、契約駐車場を使おうと思うか」という設問に、「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの 5 件法で回答を要請している。これは駐車場変更への行動意図の測定指標として設置した設問である。変化無群と減少群では、この回答に差は無かった（2 群とも平均値が 4.0＝「そう思う」）。この結果から、最終的な効果の有無（利用が減少したかどうか）に関わらず、ParkingNAVI は行動意図の形成に寄与した、と理解できる。

しかし、行動意図が形成されたとしても、行動変容がなされない場合があり、その原因の一つとして、事項意図が形成されない場合、ということが指摘されている。これは、「駐車場を変更しよう」と「思った」としても、具体的にどのようにすれば変更できるのかが分からないために、実際の行動変容まで発展しなかった、ということである。昨年度のアンケートでは、この「実行意図」を形成させる目的として、ParkingNAVI を読んでもらった後に、「あなたにとって、実際に利用候補となる契約駐車場」を契約駐車場地図を参照しながら列挙することを要請した。この契約駐車場数を、実行意図形成の指標として、二群の比較をしたところ、変化無群の方が大きい値となった（変化無群：3.57、減少群：2.50）。この結果を見ると、実行意図は「変化無群」の方が形成された、と考えられるが、実際の行動を見ると逆に、値が小さい方が行動変容されていた。この理由の推測としては、実行意図形成に必要な、選択肢集合が形成されなかったことが考えられる。Schwartz³⁾によると、「選択肢が多すぎると意思決定が困難になり、安易な選択をする傾向にある」。すなわち、変化無群は、現実的な選択肢集合を形成していなかった可能性があり、そのことが実際の行動変容に繋がらなかったと考えられる。今後、実行意図形成の際には、適切な大きさの選択肢集合を考慮に入れる必要があるだろう。

また、今回のアンケートにおいて、「駐車待ち渋滞に遭遇した時、以前より環境問題について考えますか？」という設問を設けた。この回答は、減少群の方が変化無群よりも「考える」という結果であった。環境問題意識の活性化が、駐車場変更に影響を及ぼしたと考えられる。

参考文献

- 1) 国土交通白書、第 1 部第 2 章、P27、2007.
- 2) 成田真也・中井周作・菊池輝(2013)百貨店来店者の利用駐車場分散のためのコミュニケーションツール「ParkingNAVI」、第 8 回日本モビリティ・マネジメント会議
- 3) Barry Schwartz (2004), *The Paradox of Choice: Why More Is Less*, Ecco, New York.